



櫨紅葉 (はぜもみぢ)

発行：令和7年3月6日（木） （文責） 校長 田中 克三



※3年生は今号でラストです。 学校ホームページでもご覧になれます。QRコードはこちら→

感謝の気持ちを決意に変えて、巣立つ



～明日、第78回みやき町立中原中学校 卒業証書授与式～

なかなか温かくなならない今年の春ですが、暦は待ってくれません。名残惜しいですが、明日、3月7日（金）はいよいよ3年生がこの学び舎を巣立つ第78回卒業証書授与式です。今年の卒業生は59名。前日である6日（木）には、中学校3年間の教育課程を全うしたことを証明する3年生修了式を執り行いました。

今年の修了式も、昨年度に引き続き、進路を一足早く決めている3年生の中から代表2名に依頼し、「中学校からの巣立ちにあたり、心に思うこと」をテーマに決意表明をしてもらいました。両者が述べた決意は次のとおりです。※一部、プライバシー等の関係で加工しています。字が小さくてすみません。

【今はまだスタートライン】

私は、小学校の頃から、自衛官になりたいと強く思っていました。だから、高校の勉強をしながら、自衛隊のことについて学ぶことができる高等工科大学を受験しました。

自衛官になりたいと思ったきっかけは二つあります。

一つ目は父です。父は現役の自衛官で、平日はもちろん、時には土日でも仕事に行き、国や人々を守るために頑張っています。父は、仕事が休みの時には私たち家族を車に乗せ、いろいろな場所へ連れて行ってくれました。自衛隊の記念行事などにも何回か出かけたことがあります。その時見たもの、体験したことが、自衛官を志すきっかけだったように思います。パレードで見たトラックや戦車の迫力、武器や装備、一糸乱れぬ隊員の行進。ヘリコプターからロープ一本で降りてくる隊員。どこを切り取ってもたくましい隊員の姿、非日常の世界に私は心を奪われて、いつしか自衛官になりたいと思うようになりました。そして何より、その非日常の中に身近な自分の父がいると思うと、とても誇らしい気持ちになりました。

二つ目は災害派遣です。東日本大震災をはじめ、熊本地震、昨年の一月初日に起きた石川県能登半島地震。その他の災害の報道を見ると、その中には必ず自衛隊員がいました。行方不明者の捜索や救助、瓦礫の撤去、食料や水の提供、風呂の設置など、被災者に寄り添いながら、たくさんのことをしています。自分が二次被害に遭うかもしれない状況でも、危険を承知で被災者を助け、被災地を復旧するため、自衛隊員が一生懸命になっているその使命感に、私は心を揺さぶられました。

自衛官になるための第一歩として、高等工科大学を受験することを決めました。しかし、高等工科大学の倍率は高く、全国規模での受験だったので、自分がその中で合格できるかととても不安でした。学校からも推薦をいただいたのはよかったのですが、「もしもこれで合格できなかったら、あわせる顔がない」と後に引けないプレッシャーにつぶされそうなおもいでした。

それでも前に進むことができたのは、不安でいっぱいだった自分を支えてくれた周りの方たちのおかげだと思っています。私は、高等工科大学の推薦試験まであと一か月という頃から、自分のことで精一杯で余裕がなくなっていました。例えば、家の手伝いで自分の役目である風呂掃除を忘れていて、家族がそっと洗ってくれていても、「ありがとう」の一言も言わずにいました。それでも家族は、集中力をアップさせるラムネを買ってきてくれたり、緊張をしないように、優しく接してくれたり気を遣ってくれました。また、先生方には、面接の練習や勉強面で支えてもらったり、友達からは、励みの言葉をもらったり…。気づけばたくさんの人達から支えられ、高等工科大学に合格することができました。

しかし、喜ぶのも束の間、次は高校生活での環境の変化に対する不安な気持ちが大きくなってきました。高等工科大学は、将来の自衛官を育成するための学校なので、当然厳しく、辛くなることもあるかと思います。それに加え、学校は神奈川県横須賀市にあるので、親元を離れて、自分が知らない環境でうまく過ごせるかどうか不安になりました。

ですが、私には小さい頃に見てきた「困っている人に手を差し伸べることのできる自衛官になりたい」という夢があるので、せっかく踏み出せた一歩を不安だからといって諦めたくはないと思っています。それに、高等工科大学に合格することだけではなく、その先にある使命感に満ちた自衛官になるということが目標なので、今はまだ、そのスタートラインに立っただけなのです。だから、しっかりと一歩ずつ高校生活を頑張り、将来、周りの人から頼られる自衛官になれるよう努力していきたいと思っています。（3年1組生徒代表）

【自分を救ってくれた努力】

私は、久留米工業高等専門学校材料システム工学科に進学します。この学校を選んだ理由は色々ありますが、一番は決まりが少ない自由な校風に惹かれたからです。中一的时候、母のすすめでこの学校を知り、自己責任で何でもできるところが魅力的で、自分に合っていると感じました。その時から、この学校に行きたいと強く思うようになりました。

入試では、適性検査という数学の試験と面接が行われます。私はそのために、勉強はもちろんですが、面接練習も一生懸命頑張ってきました。面接では少し独特なことが聞かれることがわかっていたので、基本的な質問とは別に、何が質問されそうか自分で調べ、対策をしていました。そして、本番では、練習通り、緊張しすぎずに頑張ろうという思いで面接に挑みました。しかし、全く練習通りにできませんでした。面接官は、私が発言したことに対して根掘り葉掘り聞いてきました。例えば、私が「バイオマス素材に興味がある」と答えると、「そのバイオマス素材についてもっと詳しく聞かせてください」と追加の質問が次々に飛んできました。そもそも、面接対策でちょっと調べただけの知識しかもっていなかった私は、うまく対応できず、私の発言に芯がないことがバレてしまいました。しかも私一人に対して男性の面接官三人で、面接官は優しくかったのですが、どうしても高圧的に感じてしまい、流れを取り戻せぬまま、全く頑張った成果を出せませんでした。だから、合格通知が来たときはびっくりしました。あんなに面接がボロボロだったのに、なぜ合格できたのか。それはおそらく各教科の「評定」です。

私は五教科だけでなく、技能教科にも力を入れていました。授業に集中して取り組むだけでなく、日頃の提出物や期末テストに向けた勉強を特に頑張りました。もちろん、苦手な教科もあります。特に体育が苦手で、運動技能の面では全然できないことが多いのですが、知識を問うテストでその分を補おうと必死に勉強しました。その結果、多くの教科で今までより良い評定をもらうことができました。合格することができて、私は低学年からこつこつ頑張ってきて良かったなと思いました。

「こつこつ頑張る」癖がついたのは小学生の時です。当時の担任の先生が厳しく、「自学ノート」を役目すましにスカスカに書いて提出するとかなり怒られました。逆に、ちゃんと書いている人はしっかりほめてくれるので、私はほめられたくて、たくさん文字が書ける5mm方眼のノートを使い、1マス1マスに文字をびっしり書いて提出することを繰り返していました。今思えば、その時、「しっかり頑張れば誰かがちゃんと見ていて認めてくれる」ということを経験できていたのだと思います。

今回の受験で私はあらためて「表面的な『役目すまし』では通用しない」ということ、そして、「努力し続けることの大切さ」を学ぶことができました。受験勉強に早すぎるということはないので、一、二年生も自分の目標に向けて今のうちからこつこつと頑張っておきたいなと思います。

合格が決まった今でも、不安は大きいです。数学が難しく進むスピードが速いうえに、「落第」を意味する「赤点」が六十点なのでついていけるのかということや、誰も知っている人がいない状態でうまくやっていけるのか不安です。しかし、努力次第でどうにでもなると小・中学校で学ぶことができたから、進学先でも努力を続けていきます。初めに久留米高専は、「決まりが少ない自由な校風」「自己責任で何でもできるところが魅力的」と言いましたが、逆に言うと、「自分自身がやりたいことははっきりしているか」、「学んで成長するのもさぼるのも自分次第」ということだと思います。そのことを肝に銘じてしっかり進級・卒業して、社会に貢献できる優秀な技術者になりたいです。(3年2組生徒代表)

きっと、努力は実る！

～3/4, 5 県立高校一般選抜入試～

3月4日(火)と5日(水)の両日、**県立高校の一般選抜入試**が実施されました。中原中からは**11校に45名が受検**。小雨で強風が吹く中、体調不良者が出ないか心配されましたが、インフルエンザ等の感染者もなく、無事に全員が学力検査や面接に挑みました。

志望校への合格を目指し、これまで積み上げてきたこれまでの努力は裏切りません。「やるだけのことはやりました」力強く語り、眉を上げる生徒、「普段通りやります」と平常心の生徒。想像していたより落ち着いて見えた3年生の表情に、「きっと、努力は実る！」と確信しました。

合格発表は、3月12日(水) 9時となっています。



【電車で会場へいざ出陣】

3年間、お世話になりました

～内定組、教室等を感謝清掃～



45名が県立入試に挑んでいる頃、既に志望校への合格内定を決めていた生徒たちは、仲間と過ごした教室やトイレなど**感謝を込めて清掃活動**を行いました。

水道の水が冷たく、手がかじかむ中、丁寧に雑巾がけ。コロナ禍でお世話になった加湿器やサーキュレーターも分解して内部まできれいに。

机・椅子に貼られたネームシールや学校行事で勝ち取った賞状など掲示物の一つ一つが思い出です。心を込めて丁寧に剥がし、見違えるようにきれいになりました。



【ゴミ箱の中まできれいに！】

3年間、お世話になりました！

